

特集

「こどもへの性教育」

いつからはじめる？ どうやって伝える？



「まだ小さいから性教育なんて理解できないんじゃない？」「大切だとはわかってるけど、どうやって伝えればいいの？」など、目を背けてしまいがちな「性教育」。親としてどう向き合えばよいのでしょうか。（あのね読者モニターアンケート回答参照）

家庭での「性教育」どうしている？

（読者モニター 10人中）

しっかりできていると思います！（2人）

お風呂やトイレトレーニングで男女の違いを教えたり、性器をきれいにすることの大切さや、人前では触ったり見せない伝えてしています。

（3歳男の子のママ）



いずれ生理がくること、血が出て腹痛や頭痛、具合が悪くなることなど、ありのままを見せています。私自身が月経異常に気づかず、子宮の病気が見つかったことがあるからです。

（5歳女の子のママ）



多少はしているけど…伝わっているのかなあ？（4人）

性やからだについて気負わず伝えたいと思い、こどもが生まれた頃に性教育の本を読みました。現在は「シャツとパンツで隠れる場所とお口はママ・パパのものでも許可なくさわらないよ」と教えていますが、理解しているかどうかは不明です。（4歳女の子のママ）

男の兄弟がいるせいか、娘が「自分にもおちんちんがある」と言うので、「男の子と女の子の体は違うんだよ」と教えていますが…。

（6歳男の子&3歳男女ふたごのママ）

したいとは思っているけど、まだできていません（2人）

いつ頃が適切なのか、どう説明したらいいのかわかりません。言い出しづらいし…。

（9歳男・3歳女・3か月女の子のママ）



まだしていないが、いずれするつもり（2人）

幼い頃はまだ必要ないのかなあ…。小学校4年頃までにすればいいかなと思っています。

（7歳女・5歳女の子のママ）



こどもへの性教育について

母子ケアハウス ふくい助産院
助産師 福井りみ子さんに聞きました

性教育に早すぎることはない

幼少期は、まだ善悪を知らない時期。日常の中で自然に教えることができるので、性についての知識を純粋に身につけるにはとてもよい時期なのです。

こどもから聞かれて戸惑ったこと

- 買い物中、生理用ナプキンを手にとったときに5歳の娘から「それ何？」と聞かれた！
「〇〇も大人になったら使うからそのときに教えるね…」と答えたいけれど、何て答えればよいかわからず焦りました。
（7歳・5歳女の子のママ）
- 「どうしてパパにはおちんちんがついていてわたしにはないの？」と聞かれて、「なんでだろうね？わからないなあ」と回答。どこまで真面目に向き合うべきか迷います。
（7歳女の子のパパ）
- 「弟はどこから出てきたの？」と6歳の息子に聞かれ、ドギマギ。「お腹から出てきたのよ」と何となくはぐらかしてしまいました。
（6歳男の子&3歳男女ふたごのママ）



こどもから質問がきたときは最高のチャンスです。「すごいことに気づいたね」とポジティブな雰囲気づくりが大切です。はぐらかさず、

真剣にキリッとした表情で本当のことを教える！

真剣に向き合ってもらったことで、こどもは「自分は大切にされている」と認識し、よい信頼関係を築くことにつながります。

「赤ちゃんはどこから生まれたの？」の質問に対しては、**こどもが理解できる言葉で具体的な場所や方法を伝えるよりも、「赤ちゃんが通るいのちの道を通ってママから生まれたんだよ」**

など、年齢や成長にあわせて教えることが大切です。



プライベートゾーンのルール

プライベートゾーン（私的領域）に関するルールや伝え方は、こどもが安全で健康的に成長するために大切なことです。

プライベートゾーンって？ →「胸・おしり・性器・口」

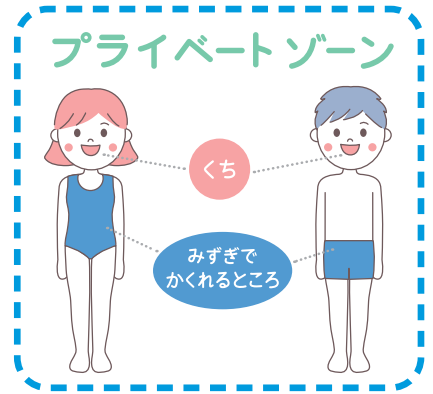
水着でかくれるところと口と伝え、こどもにはわかりやすい

自分のからだは、自分だけのもの。

自分のプライベートゾーンは勝手に触れられてはいけません。

他人のプライベートゾーンも勝手に見たり触ったりしてはいけません。

自分のプライベートゾーンやからだのどこかを触られたりしたときには、その場で「イヤだ！」と言えること。



なぜプライベートゾーンは大事ななの？

命に直接かわる場所!! 性犯罪から自分の身を守る!!

自分のからだは自分のもの、誰かに触られたり、見られるようなことがあったら、「イヤだな」「おかしいな」と気づけることが重要。命を守る力を身につける・性犯罪から自分を守ることにつながるのです。



こどもに性について説明するのが難しいと感じたとき、普段の読み聞かせの感覚で性教育ができます。「だいいだいいどこだ?」遠見才希子/作 川原瑞丸/絵 大泉書店 1,320円

プライベートゾーン 伝え方のポイント

- ①日常の中で、お風呂や着がえのときに自然と話題に出す
- ②年齢に合わせた明確な言葉でシンプルに
- ③こどもが安心して話せる雰囲気づくり
- ④大事なことだと理解させるために、信頼できる大人が何度もくり返し伝える
- ⑤プライベートゾーンを教える絵本やぬいぐるみを活用するなど具体的な例をあげて説明



家庭での性教育 親が大切にしたいことは?

毎日の生活の中で繰り返し伝えよう

性教育の話題をタブーとしないこと

自分のからだや性について安心して話せる環境づくり

イヤなことは「イヤだ!」「やめて!」と言っていい



こどもが安心して相談できる存在であること

大人が性のことを理解し、正しい知識を学ぶ



普段から良好なコミュニケーションを築こう!

- ・親自身が性教育の話題に対してオープンに受け入れる
- ・「ダメ!」「きたない!」などと否定せず、正確な言葉でありのままを話す
- ・自然と受け入れられる雰囲気をつくる
- ・イヤなことをされたら、すぐに親(おとな)に相談できる関係に

実はママ・パパは普段の生活の中で自然と性教育をしているんですよ。お風呂では「背中洗うよ〜」、オムツ替えのときには「オムツ替えようね、おしりをきれいにするからね」、ごはんのときには「お口拭こうね」…からだに触れるとき、こんなふうに声かけしていませんか?

これらは、こどもが0歳のときから始め

ている、立派な性教育です。

この「からだに触れるときの声かけ(同意)」は「自分は大切にされている」という感覚や、「他者を思いやる心」を育みます。

日常の中で幼少期からはじめる「性教育」は「生教育」、命を守る「道しるべ」となるのです。(談)

